Rotary 水戸ロータリークラブ MITO ROTARY CLUB WEEKLY REPORT

（2021～2022年度 国際ロータリー・テーマ）

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

「梅香る弘道館」（水戸市）

孫バカ日誌

宮﨑　雅彦（廃棄物処理）

2021年７月娘が出産しました。初孫はひいき目に見てもお猿さんにしか見えなかったのですが妻と娘夫婦の喜ぶ姿を見て、行く末を嘆くこともできず心に押しとどめました。コロナ禍での里帰り出産で子供たちにさえあまりしなかったおむつ交換や沐浴をすることとなりました。振り返ってみると子育ての時期には仕事と青年会議所活動、時間とお金に追われる毎日で「ほぼ母子家庭」という嫌味を常に浴びせられながら過ごした日々でした。夜泣き、ミルク、おむつ交換、入浴、等の補助、妻と娘の八つ当たりの受け止めなど格闘の日々が続く中、考えもしなかった私の中の母性が沸々と湧き上がってきてしまいました。お猿さんがホモサピエンスとなり目に入れても痛くないという比喩より、痛点を刺されても痛くないぐらいの愛情を感じてしまったのでした。嵐のような幸せな時間もあっという間で、今は山のようなおもちゃを買い揃え孫が来るのを待ち焦がれる毎日です。

そんな孫たちの世代に少しでも良い環境を、仕事を通して残したいと考えています。ここ数年、廃棄物を取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。例えば中国が廃プラスチックを輸入規制して日本中が廃プラであふれたのですが国内で加工して原料として輸出するようになりました。そこから漏れた物までリサイクルしようとすると遠距離の移動と洗浄・加工が必要になったりします。一方、家庭ごみは生ごみが多いためマイナスカロリーで焼却するために重油を使っているのです。リサイクルに環境負荷が高いものは重油の代わりに燃やした方が良いのです。その熱を利用して発電すれば各地域で送電ロスも少なく地域ごとに消費することができます。経済至上主義もいけませんがリサイクル絶対主義もどうかと思うのです。カーボンニュートラルの本当の意味を考え経済性も加味しないと長続きしないと考えます。

No. 26　2022・2・15

1951年3月6日設立
1951年3月15日RI認証
水戸ロータリークラブ
■会長　岡﨑恵一郎　■幹事　白田　礼治
■例会日
毎週火曜日・12時30分
常陽銀行本店8階
■事務所
〒310-0021　水戸市南町２丁目５番５号　常陽銀行本店　別館５階
TEL.029（231）2151（代表）　直通（225）4820　FAX.029（225）4825
E-mail r.i.mito@sage.ocn.ne.jp　ホームページ http://www.mito-rc.jp/

【卓　話】　国際奉仕の活動報告

国際奉仕委員会　委員長　安　　圭一

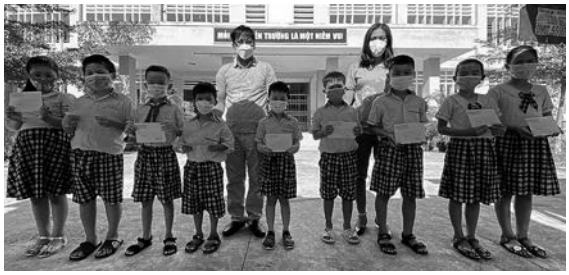
今年度、国際奉仕委員会委員長の安です。本日は、国際奉仕の活動報告をさせていただきます。ロータリークラブにおける国際奉仕は、国際的なプロジェクトでボランティアを行い、海外のパートナーとの協同活動を通じて、平和と相互理解を推進することです。

水戸ロータリークラブは、ベトナムのボランティア団体である、WARM WIND SCIETY（WWS）をパートナーとして活動をしております。WWSは、米山奨学生として水戸ロータリークラブがサポートしていたアンさんが所属する団体であり、地域の子供達への援助活動を行っています。例年ですと、９月に行われる中秋祭に参加するために、水戸ロータリークラブからもベトナムに訪問していましたが、コロナ禍のため訪問することができない状況です。

国際奉仕活動として、①中秋祭を通した教育意欲の向上　②文房具等支援物資の提供　③小学生の通学環境の整備を主として展開しているところですが、本日は、新たな活動として実施している奨学金事業について報告させていただきます。

この事業は、ベトナムの小学生を対象に、１校あたり１万円として５校に対して奨学金を送るものです。昨年度からスタートして10年間継続する予定です。具体的な交付先については現地のWWSに協力してもらって実施しています。本年度の交付先は、Ma Da小学校、Nhi Binh小学校、Vinh Dai小学校、Xuan An小学校、Xuan My小学校、以上の５校です。本来であれば学校の修了式などの機会に交付式を行う予定でしたが、コロナのため休校となっているそうです。アンさんから、「奨学金をもらった生徒は恵まれないですが、優秀な子供たちです。」との報告を写真と一緒にいただきましたので、本日はその紹介をさせていただきました。

リモートでの交流を含めてできる限りの活動を積極的に行ってまいります。皆様のご協力を、よろしくお願いいたします。



例　会　報　告　　２月第３例会（オンライン）　　司会　阿部委員

◇ 会長の時間

岡﨑会長

連日、北京オリンピックでの日本人の活躍が報道されています。メダルが取れた人、悔しい思いをした人がいますが、晴れの舞台に立つだけでもすばらしいことかと思います。オリンピック出場とまでいかなくとも、先日の水戸市との子どもたちへの支援協定やインターアクト・ローターアクトを通じ、水戸ＲＣも未来を支える若者を支援できればと思います。

冬季オリンピックの競技、スキー、スノボ、スケート、カーリング、すべて雪や氷の上を滑る競技です。映像を見ていますと大学時代「なぜスキーは滑るのか」という教養科目を選択したことを思い出します。40年前の話ですので、確認のため検索してみました。驚いたことにいまだ十分解明されていないそうです。２つの説があるそうです。「固体潤滑説」はスキーと雪面、固体間の摩擦係数が少ないと良く滑るという説。「水潤滑説」は、スキーが滑走することによって発生する摩擦熱が雪を溶かし、微細な水滴によって摩擦係数を下げるという説です。固体潤滑説は雪温が変化することによって滑走性が変化することを説明できない、水潤滑説は湿った雪上で滑走性が悪くなるのか説明できないと、どちらも説明できない点があるそうです。

かなり前ですが、なぜバナナの皮は滑るのかを研究し、イグ・ノーベル賞を受賞した医学部教授がいらっしゃいました。人工関節を研究する先生だったと思います。バナナの皮が滑る理由も解明されている時代、スキーが滑る理由がブラックホールとは驚きです。

オンライン例会中ですが、週報などは委員会のご協力により通常通り発行されています。益子さん、中條さんと車に関する話題が２つあり楽しめます。Webより確認下さい。

それでは、本日もよろしくお願いいたします。

◇ 出席報告

山口(晃)委員長

会員数	出席数	欠席数	本日の出席率
122名	71名	51名	63.96％

前週訂正出席率　89.38％

◇ 会員メークアップ

2/8 北海道2500REC 原口　哲也、磯﨑　寛也

◇ 幹事報告

白田幹事

１．2021～2022年度地区大会は、５月７日㈯・８日㈰に、つくば国際会議場にて開催されます。第１日目は、会長幹事会・各種委員会・地区指導者育成セミナー、第２日目は、本会議・記念講演・大懇親会がございます。登録締め切りが２月21日㈪ですので、ご出欠を事務局までお願いいたします。

２．３月定例理事会が開催されます。
　と　き　２月22日㈫　11:30
　　Zoom開催
　議　題　１）新会員候補者審議について
　　２）新会員候補者所属委員会について
　　３）3月・4月例会プログラムについて
　　４）会計報告
　　５）その他

～～～基本的ニーズへの対応が
ポリオ予防接種への信頼を築くカギ～～～

パキスタンの都市カラチのはずれにあるコミュニティ、カディム・ソランギ・ゴスは、世界に残る数少ないポリオの温床の一つです。土やあり合わせの材料で作られた住居に4万人以上が住み、なかには、灼熱の太陽やモンスーンの雨を綿布1枚でしのいでいるうちもあります。「このあたりに住んでいるのは最貧困の人たち」と語るのは、パキスタンポリオプラス委員会のプロジェクトマネージャーであるアシャー・アリさんです。

ここは特にポリオが根強く残っており、ポリオ根絶活動に最も強く抵抗しているコミュニティの一つです。世界ポリオ根絶推進活動（GPEI）はこのコミュニティを最優先地域に指定し、パキスタンのポリオ根絶イニシアチブはこのあたりを含む行政地区を「リスクが極めて高い」地域に分類しています。

ここにポリオが残りつづける理由の一つに、ゴミの山と下水溝があります。ポリオウイルスは汚染水を介して感染するからです。しかし、

もう一つの主な原因に、この地域での予防接種率の低さがあります。基本的ニーズが満たされていない地域では、住民たちにとってポリオ予防接種の優先順位は低くなります。「予防接種が拒絶されてしまうのは、宗教的な理由ではなく、市民として得られるべき快適な生活が欠けているため」と話すのは、パキスタンポリオプラス委員長であるアジズ・メモン氏です。「人びとはこう言います。『一体あなたたちはここで何をしているのか。経口ポリオワクチンを持って何度もここにやってくるが、電気、道路、安全な水についてどう支援するかは一切話してくれない』と」

それでも、カラチを含む国内数カ所に浄水場が設置されたおかげで、ポリオ根絶プログラムに対する信頼はここ２年ほどで大きく高まっています。2020年12月には、カディム・ソランギ・ゴスのコミュニティにも浄水場が作られました。これは、パキスタンに合計36の浄水場を設置するGPEIの取り組みの一環であり、ロータリー会員は2012年以来、コカ・コーラ・パキスタンとの提携、ロータリー財団グローバル補助金、ポリオプラス・パートナー補助金、ロータリー地区や他団体との協力など、さまざまな方法で浄水場の設置に取り組んできました。現在建設中や計画中の浄水場もあります。

「コミュニティで安全な水が利用できるようになった今、戸別訪問で母親たちが子どもの予防接種を拒絶することがなくなったという報告が、ポリオ予防接種ワーカーたちから寄せられています。」とアリさんは言います。

これらの地域では、水と衛生の改善によってポリオの拡大が食い止められているだけでなく、新たなインフラの構築がポリオ根絶プログラムへの好意的な態度につながっています。「すべてが結びついている」とインターナショナルポリオプラス委員長のマクガバン氏は述べます。

これこそ、安全な水、治療、蚊帳、石鹸など、予防接種を超えた恩恵を地域社会にもたらすロータリーのプログラム、「ポリオプラス」の「プラス」と言えます。例えば、ナイジェリア北部では、ロータリーと協力団体がソーラー発電式ポンプの井戸30基以上をつくったことで、住民からの信頼が築かれました。この戦略が功を奏し、ナイジェリアで最後のポリオ症例が報告されたのは2016年、そして2020年には世界保健機関（WHO）がアフリカ地域のポリオ根絶を認定しました。

パキスタンのロータリー会員は、水プロジェクトと合わせて保健キャンプも実施し、医療を必要とする住民たちを支援しています。「ポリオ根絶だけが目的ではないこと、つまり“ポリオプラス”であることが示されています」

カラチ近郊にあるもう一つのコミュニティ、ハサン・ブロヒ・ゴスでは、多くの人が窯を使ったレンガづくりで生計を立てています。窯から出る煙に包まれたこの町では、呼吸困難など住民たちの健康に問題が生じています。このコミュニティには医療施設がありません。壊れた水道管から供給される水は飲み水として安全ではなく、多くの住民は業者からの高額な水道料金を払う余裕がありません。

そこでロータリー会員が窯のオーナーと協力して浄水場の設置場所を確保し、カラチ・ロータリークラブとメーズビル・ロータリークラブ（米国）が提唱したロータリー財団グローバル補助金を通じて浄水場が設置されました。

「浄水場のおかげで住民から信頼されている」とアリさん。「人びとはロータリーを知っています。そのことをとても嬉しく思います。WHOであろうと、政府であろうと、ポリオ根絶チームはここで歓迎されています」

（『Rotary』誌2021年12月号掲載。
My Rotaryより）

週報担当　長野　久嗣 委員長

例　会　予　告

於　ホテルテラス　ザ　ガーデン水戸

３月　８日（火）
卓話「茨城いのちの電話の概要と
現状について」
茨城いのちの電話
水戸事務局員　平野美和子 氏
水戸事務局員　安田　智子 氏

３月１５日（火）
― イニシエーションスピーチ ―
卓話「転勤族、茨城を行く」
田中　祥之 会員

３月２２日（火）
― イニシエーションスピーチ ―
卓話「私の来し方行く末」
細井　伸二 会員

…… 例会欠席の方は、４日前までに事務局までご連絡下さい。……